

総合的な学習の時間の第 1 の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

グローバルな視野と起業家精神を兼ね備え、自ら人生を切り拓くとともに、「地域」と「世界」をつないで地域創生に貢献するグローバルリーダーを育成する学校
<育てたい生徒像>
1. 主体的な学びを通して、知識・技能を活用することができる生徒
2. 探究的な姿勢で、新たな創造をすることができる生徒
3. 豊かな人間性にあふれ、多様な人々と協働することができる生徒
4. 個々の夢の実現に向けて、挑戦し続けることができる生徒

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- 世界や地域の特色や課題について積極的に学ぼうとする意欲をもつ。
探究活動を通して、課題の発見や解決に至る「見方・考え方」や、課題を解決するために必要な知識、情報収集や分析等に必要な技能を身に付ける。
課題を発見し解決する過程の中で、様々な人々と協働しようとする態度や、解決に向けて話し合ったりするコミュニケーション力を身に付ける。
探究活動を通して、自己の在り方生き方を考え、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

総合的な学習の時間の学習評価

- 探究の過程で必要となる基本的な知識や技能を習得できているか。
(例) 活動のまとめりに毎に理解した内容などをまとめたポートフォリオを作成させる。
探究において、自分の考えを効果的に表現しながら、多くの異なる価値観を持つ人々と協働することができるか。
(例) グループワークやフィールドワークなどの様子を観察する。
探究の過程を通して、課題の発見や解決に向けて自律的に取り組み、社会に参画しようとする態度が見られるか。
(例) レポートやプレゼンテーションなどを評価する。

生徒の実態

- 生徒は概ね積極的に学習に取り組み、授業も自主学習も意欲的である。
規範意識や自己の相対化などについては、個人差が大きい、少しずつ身に付いてきている。
部活動や各種行事、校外活動などの諸活動には積極的に参加している生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- 身体的障害の不利にならないよう、多面的な評価を行う。
様々な特性を持った生徒一人ひとりに合わせた柔軟な指導を行う。

目指す生徒の姿

- 多様性の容認や批判的思考力、情報リテラシーなどこれからの社会に必要な資質能力を身に付けた生徒。
すべての教科・科目にわたって、自ら課題を見つけ計画的に学習できる自律的な生徒。
アイデンティティを確立し、他者と相対化された自己と向き合える自己肯定的な生徒。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

未来探究
<グローバルプログラム>
(1) 自己や他者、世界の在り方を学び、グローバルコンピテンスを身に付ける。
(2) ペアやグループで協働し、多様な価値観を認め合うコミュニケーション能力を身に付ける。
(3) 英語を積極的に使い、英語による自己表現力を高める。また、異なる文化や言語をもつ多様な人々と協働しようとする態度を養う。
<探究プログラム>
(1) 地域をフィールドに、課題発見・情報収集および分析・まとめ等の探究活動の基礎的スキルを身に付ける。
(2) 基礎的なプレゼンテーションの技法を身に付ける。
(3) 起業家や研究者などの経験談などを聞き、探究することの意義や楽しさを学ぶ。
(4) 一人ひとりの興味関心を広げたり深めたりする探究活動をとおして自己の在り方・生き方を見つめ、将来のキャリア形成につなげていく。将来の自分を想像し、そこから逆算しながら今努力すべき事に気づき、自ら学ぶことのできる自立した生徒を育成する。

学習活動、指導方法等

未来探究
<グローバルプログラム>
・3年間にわたって、外国人講師と本校教員との IT でオールイングリッシュの授業である「GLOBAL COMPETENCE PROGRAM」(以下 GCP)を週 1 コマ、年間 30 コマ実施する。
・GCP はクラスごとに行い、グローバル社会のリーダーとして求められる基本的な資質や技能を習得する。
<探究プログラム>
・1、2 年次は「地域探究ゼミ」を実施する。
・1 年次は「ひたちなか市の魅力発見」をテーマに探究活動を行い、レポート作成及び発表を行う。
・2 年次は「ひたちなか市の課題解決」をテーマに課題を設定し、インタビュー等の活動を通じて情報を収集・分析し、スライドにまとめ、解決策を提案する。
・2 年次は夏季休業中に職場体験活動を行う。事前・事後指導を充実させ、生徒が自らのキャリア形成について思考を深めるよう指導する。
・3 年次は 5 月の修学旅行を軸に沖縄をフィールドとした地域探究を行う。これまでの地域探究の手法を生かして探究を進める。
・3 年次の 9 月以降は「夢探究ゼミ」を実施する。生徒は、グローバル・起業家・サイエンス・プログラミングの 4 つのゼミから希望する 1 つを選び、それぞれのゼミ毎にテーマを設定し、探究活動を行う。成果を 3 月の中高合同「探究フェス」で発表する。
・起業家や研究者など多様な講演を聞き、自らの課題意識や行動がどのように社会への貢献につながるかについて考える。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- 進路指導部内に未来探究室を設置し、年次を越えて「未来探究」全体の企画・運営を主導する。
未来探究室と年次が協力して生徒を指導する。
企業 (ISA) と連携し、通年の GCP を実施する。
近隣企業、自治体、大学、様々な外部団体と積極的に連携し、「未来探究コンソーシアム」の構築を目指す。
連携の手立てとして、講師を招聘しての講演会や、大学生によるティーチングアシスタントの活用等を進める。